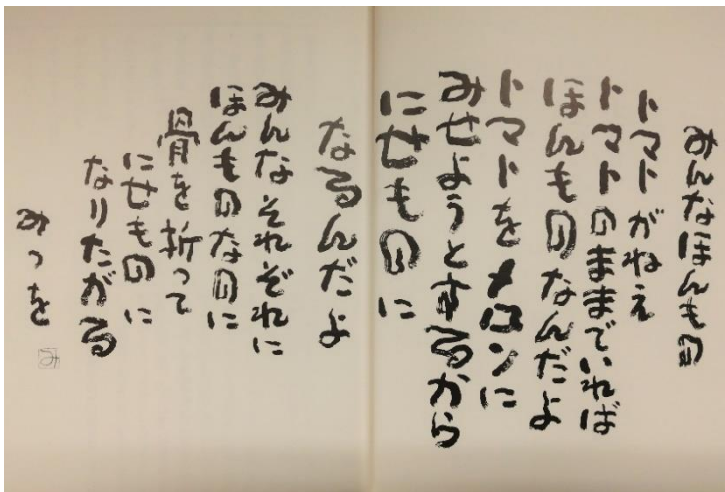




緊急事態宣言やまん延防止等重点措置は、9月30日で解除されましたが、まだまだ安心できる状態ではありません。そのような大変な状況の中でも、学校では子どもたちいろいろなことを経験させてやりたい、体験させてやりたいという思いで感染防止対策に取り組みながら、「修学旅行」や「文化祭」「運動会」等の行事を実施しています。先生方の御苦勞は大変なことでしょう。

子どもは、見たり、聞いたり、身体を動かしたり、人と関わったりすることで、机に座ってする勉強では学べない多くの大切なことを学びます。保護者の皆さんには、そのような子どもたちや学校を応援してあげて欲しいものです。

## みんなほんもの



市広報「ほうふ」毎月1日号の最終ページに、『元気な赤ちゃん大集合』というコーナーがあります。ご存知の方も多いでしょう。そこには、かわいい赤ちゃんの写真が掲載され、私たちに微笑みかけてくれています。どの赤ちゃんも可愛い笑顔で、見ているとついこちらも笑顔になってしまいます。「純粹」「無垢」「無邪氣」という言葉がぴったりとあてはまり、どの子にも幸せになって欲しいと思わされます。

生まれたばかりの子ども「ここ

ろ」は真っ新で、キャンパスで言えば、まだ色がまったくつけられていないと言っている状態です。このキャンパスにどんな色をつけ、どのような絵を描いていくのは子ども自身が決めていくのです。子どもが素敵な絵を描いていく上で、私たち大人はどんな支援をすればいいのでしょうか。

乳幼児期には、子どもにしっかりと愛情を注いでやりましょう。そうすることで、子どもは自分が親に守られているという安心感をもち、自分の存在価値を実感できるようになることでしょう。さらに、社会の規範や良いお手本を示してやりましょう。そうすると子ども自身が自分を信じながら、社会生活の中で、自分で判断し、自分で責任ある行動ができるようになるのです。そして、自分の道を自分で探し、歩いていくことができるようになり、自立するのです。

自立するまでは、よちよち歩きで石につまずいたり、壁にぶつかったりするなど、親にとって心配な場面が見られるかも知れませんが、そっと見守り、あるがままを認めてやりたいものです。その過程で、子どもに自主性や自立性が身についていくのです。子どもに限らず草花でも農作業でも、何でも育てることが上手な人は「待つ」ことが上手な人だといわれます。「待つ」ことは子育ての大切な方法の一つなのです。

ここで、相田みつをさんの「みんなほんもの」という詩を紹介します。

トマトには、トマトの良さがあります。メロンほど甘くはないかもしれませんが、栄養がたくさんあり、みずみずしいおいしさもあります。トマトはメロンにならなくてもいいのです。「そのままがいいよ」と子どもを認めてやりましょう。そのことにより、子ども自身が持つ良さを発揮できるのです。認め信じてやることこそ親ができる一番大切なことなのだと思います。

子どもたち一人ひとり、「みんなほんもの」なのです。

文責＝青少年育成センター指導員 藤村